

令和5年度

学生によるオレンジリボン運動

草苑保育専門学校実施報告書



実施主体 草苑保育専門学校 学生

実施内容 杉山 春さん講話／街頭配布活動／草遊祭(文化祭)ブース展開

①事前に取り組んだ内容

- ・ルポライター杉山 春さんの「児童虐待について」の講話を聞き、理解を深めた。
- ・文化祭の「オレンジリボンブース」での活動を行うためにクラス全員でオレンジリボン製作と、壁面ポスターを作製した。
- ・「子ども家庭福祉」や「子ども家庭支援の心理学」、「社会的養護」の授業で児童虐待についての理解を深めた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・11/1 ルポライター杉山 春さんの講演を聞いて
子ども虐待の背景には様々な要因があり、多様化する家族、家族を守る基盤なども手薄になっていることも重なっている。こうしたことから行政と課題のある家族を繋ぐ役割も保育士にはあるということ学んだ。虐待に対する保育士などの危機感を高めるためにも、このような講演は定期的に実施してほしいと感じた。
- ・11/9 11/10 豊島区主催 街頭キャンペーン参加
大塚駅と椎名町駅にて、オレンジリボンと共に区が用意した啓発グッズを配布した。なかなか受け取ってもらえず、配布活動の難しさと共にオレンジリボンの認識の低さを感じた。
- ・文化祭でオレンジリボンを貼ってもらうためのポスター製作
「子どもまんなか」と虐待防止の輪を広げるためにリースの形をイメージし、明るい未来への希望を持てるよう花をたくさん飾って作成した。
- ・文化祭当日の9時30分～15時30分までオレンジリボンブースでの活動
来場者へのオレンジリボンの配布と虐待防止の呼びかけ、子ども達へはリボンの製作とポスターへの張り付けをしてもらった。オレンジリボンの活動によって虐待が減ることを願う。



③オレンジリボン運動を終えて…

活動に参加した学生へのアンケートを実施し、アンケートから以下の意見や声があった。

「リボン製作を通して児童虐待防止をすることができ、意識が高まった」

「街頭キャンペーンに参加したが、世間の関心や認知度の低さを感じた」

「街頭で呼びかけるにあたり、事前にもっと知識を深める必要があると感じた」

「文化祭当日の活動で関心を示す保護者が多く、子どもへの虐待防止について話す良いきっかけになったという声をもらった」

また、虐待防止につなげるためには

「行政だけでなく他人事ではない意識を持つ」

「疑われるような気づきがあれば、勇気を持って声をあげることが大切」

「正しい知識があれば、早期発見につながる」

などの意見があった。

私たちは将来、保育者を目指す学生として学校全体で、児童虐待防止活動への理解を深め、今後も様々な形で「オレンジリボン運動」に参加していきたいと思う。

【草苑保育専門学校】 <https://www.soen.ac.jp>